【短歌】　岡崎　桜雲　選

柔肌の赤いほっぺでのっぽの娘似合わぬおさげ両手でつかむ　原　茂
祝日に貰いにしこのリンドウや棚田に働く母の影たつ　坂上のぶ子
リハビリの自転車こぎのしんどさよこれさえ出来れば何でも出来る　畠山　千江
時をこえ軸の裂に浮く仮名の妙澄みゆく秋に興風と会ふ　中村　紫乃
おとなりの屋号に生まれ東班最後を灯し君は逝きたり　森本　幸美
君逝きてむくげの花は首をたれ庭のかたえに秋立ちにけり　西野地　薫
水色の自転車をこぎ海へ行く水平線の入り日見たくて　山﨑　貴子
墓参り手すりにつかまり石段をこれが最後と頑張り登る　盛岡　雛子
コロナ禍に子や孫達の帰省なく留守居するわが歳はとまらず　五百蔵利美
背が伸びる指圧の後のここちよさ日赤奉仕コロナ禍の中　伊藤　清子
老いて尚一日短かき事惜しみ秋の夕暮れ農の庭掃く　山﨑　雅也
カナリアは歌を忘れて家の中秋風が呼ぶ外を歩けと　岡本　初美
電柵の下くぐる猪の巧妙さ餌場うばひしはヒト科ヒトにて　大岸由起子
哀れなりモフと云う名の猫逝きて悲しき日々をわが過しいる　高田　清子
猛暑にもコロナにも負けず体操会後期高齢三密避けて　吉村　弘子
耕され手入れされいし田や畑今猪の往来道に　小松　敏子
もう終りと云いつつい
くさじ食わするやババよそなたも数忘れしか　小原　景守
満天の空を見上げて呼んでみる声無き人の声聞きたくて　公文　千恵
明るくて声の大きい夫でした墓所いっぱいに曼珠沙華咲く　吉本　悦子
腰打ちてズボン穿けぬと手を貸しぬ恐れし事のいま現実に　小松もとみ
四時前に逝つたよと兄のひくき声耳にのこりて夜の更けてゆく　佐竹　玲子
池の向かう緑ゆたかに木木茂り麦藁帽子の男急げる　都築　初代
米非常事態宣言いやでも目に入る新聞一面早く消え失せ新型コロナ　古谷　由美
二カ月を籠もれば聴覚敏感となりて様々の音を深く識る　佐々木真里
葉の上に乗るように咲く合歓の花初夏となりゆく風にそよげり　小松　信子
朝あけの涼しき風が肌にふれここちのよき季節となりたり　岩井美知子
炎天に咲く花オクラ二つ三つわが市の気温今日最高記録　宮地　亀好
秋彼岸近づく頃に曼珠沙華炎のごとく一斉に咲く　松中　賀代
米寿きて好きなことして生きられる支えてくれる人ありてこそ　門田　明子
しんと静けき耳を恋ひをりわが耳はあまたの虫が楽を奏づる　竹村　咲子
退職のわれに関はり無き連休キャンピングカーの往くを見守る　古川　安子
同窓会今年はならずコロナ禍で帰省かなはぬ東京の友　大石　綏子
つぶらな瞳秘めたる天性奥深く藤井二冠の超人能力　武内　弘子
縁側に座して一盌いただきぬ初夏のおとづれ満ちたりし朝　小松　禮子
八十路坂つまづきながら登りゐるこの身にコロナ禍取り付くなかれ　公文　正子
アルコール消毒なして茶を点つる七ケ月振りマスクが集ふ　町　耿子
夫植えし朝顔の花は咲き揃いつる伸ばしゆくさまいとおしき　尾立ひとみ
アガベ咲く吾の背三つ連ねてもなお高くある黄金の花笠　秋　星
休校措置解けて戻りし学生の声賑やかに万緑の空　井上　有子
コロナ禍に季節は律義に廻り来て草・木・花は去年と変わらず　刈谷美代子
真っすぐに伸びて花咲くアガパンサス人の心もかくあれかしと　寺内　啓子
木を焼けば英知手間にて炭となり冥利尽して灰となるなり　小松　美鶴
山間のかつて勤めし佐岡小流るる小川清く冷たし　溝渕　龍泉
たくさんのオクラ取り終え一呼吸四国山脈緑の稲田　中村　佐代
母嫁ぎ六十五年の古箪笥孫は気に入りアトリエに置く　大場比奈子
続く雨に長く伸びたるぎぼうしの伏したるままにうす紫の花　明石　敬恵
愛鳥が大往生で十二年家族みんなをいやしてくれた　吉川　恵

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、ご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）　FAX 53－5958

第14回香美・香南地区短詩型文学振興大会

香美・香南地区文化協会賞

※香美市の方および香美市の文化サークルの方の作品のみ掲載しています。

短歌の部

（選者　岡崎桜雲）

特　選　声ひくめ反戦の詩を読みくれし師よはろけかりし「国史」の時間　大岸由起子
優　秀　蔓荊の咲く古里に母は亡く雨の一日を早々と去る　岡村　敏子
優　秀　共に汗を流しし仲間を見送りていつもの坂をとぼとぼ帰る　吉本　悦子
佳　作　病院に妻と見たるはいつならむ今年も咲きしゆうすげの花　宮地　亀好
佳　作　吾が意志のままに動ける嬉しさに小さき靴はき曾孫は駆ける　明石　敬恵
佳　作　いつもいつも有難うです給料日言ってくれたね夫もう居ない　町　耿子
佳　作　弾圧のための立法香港の悲惨を思ふ日本をおもふ　竹村　咲子

俳句の部

（選者　味元昭次）

特　選　秋夕焼いのち見極むすべなしや　森本　之子
優　秀　風死んだ波止場無灯の船還る　樫谷　雅道
優　秀　秋冷や石を叩けば石の声　乾　真紀子
佳　作　無人家の長押に遺影蝉時雨　佐竹　洋子
佳　作　暗がりの一升瓶に赤蝮　明石　韮生
佳　作　四御代を生かされ生きて夏迎ふ　奥田　裕美
佳　作　傘立に三本梅雨の整体院　尾﨑　百代

前文　私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。
先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

本文
1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。